

ラストは下記より引用しました。深く感謝申し上げます。)

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kyoiku/rekishibu...>

### ウィーブ・エンディング

### Weave Ending [wɪ:v ɛndɪŋ]

意味は『ウィーブ的な終わり方、ウィーブと同じように終わる事。その終わりの部分』で、主にスロー フォックストロットで用いる表現。例えば男性左足前進（女性右足後退）からプログレッシブ・シャッセ・ツー・ライト（ライト・シャッセと略して言う場合もあります。ワルツではベーシック・ステップですが、スロー フォックストロットに於いてはベーシックではないけれど、よく使われます。）の最終歩（SQ&Q）から、ウィーブ・フロム・PP（又はナチュラル・ウィーブ）の第4歩～7歩目を接続する時、その終わり方をウィーブ・エンディングと言います。又ベーシック・フィガーの中では、バウンス・フォーラウェイの終わり方が、ウィーブ・エンディングになっています。

### ウィーヴ エンディング

ウィーブは機織り！



### ウィーブ・フロム PP

### Weave from PP (発音は省略)

ワルツ、スロー フォックストロットで用いられる基本ステップの名称で、ウィーブは『織る、織り成す。』の意味で、男女が縦糸、横糸のイメージで、織糸が織られる様に入れ替わる感じなので、こう呼ばれます。PP からスタートして、普通は“台形”の軌跡を描いて移動するステップです。

### ウィズ

### with [wið] ウィズ

前置詞で『～と共に、～を伴って、～と一緒に。』の意味を表わします。例えばステップ名で、タンゴで“タップ・ウィズ・レフト・スウェイ”と言えば、“左スウェイでタップ”という意味になります。左スウェイと共にという意味です。

### ウィスク

### Whisk [(h)wɪsk] ウィスクまたはフウィスク

名詞で『(毛、わら、小枝などで作った)小ぼうき。洋服ブラシ。(鶏卵、クリームなどの)泡立て器。』また動詞としても同形で用いられ、意味は『(手などを)払う、払いのける。(モノを)さっと動かす。(卵、クリームなどを)かきまわす。』などの意味があり、ダンスでは、片方の足をもう一方の足の後ろにステップ



する動作を意味

します。ワルツやサンバの基本フィガーの名称として使われています。以前は、どちらかと言えば“ホイスク”と書かれていました。結局発音記号を見ると判明なのですが、日本語表記にしにくい発音なので、( )付きの[h]を尊重して発音すれば、“フウィスク”（しかし



“フ”の発音になるからと言って、上の歯で下の唇を噛む訳ではありません。)に近くなり、ホイスクとかけますし、[h]を無視して、[wi]から発音すれば、“ウィ”となるので、ウィスクと書く訳です。どちらも表記としては正解と言えそうです。さて、そもそもウィスク（ホイスク）というステップは、はるか昔クローズドチェンジをして足を揃える時に、バランスを崩して（男性の）右方に倒れそうになって、転ばない様に足を交差して踏み止まってできたと言われております。更に色々な文献を調べると、有名な先生が、ウィスキー(whisky)を飲みながらレッスンしており、このウィスキーがフロアーにこぼれたので、生徒さんが滑って、やはり倒れそうになって、後方に足を踏みしめたので、ウィスキーを記念して?!

whisky から y を取り除いて whisk と命名したとも伝えられております。

またサンバの基本フィガー名としても用いられます。足をサッと後ろにかけるステップです。

### ウィスク・シャッセ

### Whisk Chasse [(h)wɪsk ʃæsɛi] ウィスク シャッセ

チャチャチャで用いられるシャッセの種類のひとつで、きちんとチャート（表）にて定義されています。使用例としては、スウィートハートという足型（WDSFの教科書での）男性の、最後の部分で、女性を左回転させて、自分の前に戻す時の4&1にこのウィスク・シャッセが用いられています。名前の通り、234&1の4&1の部分で、ウィスクをする様な動作（3歩の、普通のシャッセの代わりのアクション）をするモノで、たとえば言えば、今男性が右足から踊るとすれば、ちょうどサンバの左足からのウィスク1a2の「a2」の部分（つまり後ろにかけて、前の足を動かさずに体重を戻すという2歩）を、4&のカウントで、右足、左足と踊ります。そして3歩目に、後ろにかけていた右足を横にステップするという足型です。

## ウィップ Whip [(h)wɪp] ウィップ

ウィップにはたくさんの意味があります。まず動詞で『（…）を<sup>むち</sup>鞭打つ。（人に～を）厳しく教え込む。（～を）急に動かす、ひったくる。（卵白、クリームなどを）かきまわして泡立たせる。』で、他にも多くの意味があり、日常生活でも頻繁に使われる単語です。名詞としては『<sup>むち</sup>鞭で打つ事。ホイップ（卵白・クリームなどを泡立てて作ったデザート用のお菓子、又はクリームの名称。）』で、日本語にもなっている、ホイップ・クリームのホイップが、実はこの単語です。ちょうど、ウィスクとホイスクのカタカナ表記同様、ある時は、ウィップ、ある時はホイップと表記されるのです。

ジャイブの基本フィガーの名称で、リンク&ウィップといっって、リンクという足型とセットで踊られますが、これはほぼチャチャチャのナチュラル・トップと同じステップで、オープン・ポジションからクローズド・ホールドになり、男女ふたりで右回転するステップです。名前の由来は、鞭打つというよりは、動詞の意味の中に『（急に）動かす、動く。』というのがありますが、そういう風に、急激にクルリンとかシュパッと回転するからです。鞭の動作からして、瞬時の動きなので、要するに、素早い動作、又はホイップ・クリームを作る様にぐるぐる素早く回すというイメージが“ウィップ”なのです。解説の順番が逆になりましたが、ウィップは、ジャイブの基本フィガーで、前述の様に、チャチャチャのナチュラル・トップの男性の、後退の回転での交差（キューバン・クロス）、そしてそれはずして、横にジャイブ・シャッセをするという5歩からのステップ名です。



## ウィップ・スピン (又はホイップ・スピン) Whip Spin [(h)wɪp spɪn] ウィップ スピン

これはラテンのポピュラー・バリエーションのジャイブのNo.3に掲載されているバリエーションで、簡単に言うと、リンク&ウィップで、ウィップの最初の2歩から、女性がちょうどロンバのロープ・スピンの様に右回転で、男性の後ろに移動して、これを男性は1/2左回転で迎え撃つ?! 様に向かい合って、その後男女ともその場での後退のボタフォゴに続けたりするステップです。古い昔のメダルテストの級で、愛知県のルーテンに採用されていました。

## ウィップ・スローアウェイ

## Whip Throw-away [(h)wɪp θrəʊəwei] ウィップ スロウアウェイ

言ってみれば『ウィップしてから、向こうに放り投げる。』という意味で、これもジャイブの基本フィガーのひとつの名称です。通常のウィップは、横へのシャッセをして、男女は両腕ホールドのフォーラウェイ・ポジション（PP）になる訳ですが、このウィップ・スローアウェイは、最後のシャッセの部分で、いわば女性を遠くに放って、片手ホールドのオープン・ポジションになって、向かい合って終わります。



ちなみに、関連重要周辺事情?! ですが、リンディホップ（アメリカ発祥のエネルギッシュなダンスで、ジャイブの原型）の一番の中心をなし、頻繁に用いられる足型は『スウィング・アウト』という足型なのですが、これが、このウィップ・スローアウェイにはほぼそっくり同じです。（今の記述の様に、リンディホップに於いては、このいわば、ウィップ・スローアウェイ（＝スウィング・アウト）が主役なのですが、英国人が調整した“ジャイブ”に於いては、主役にはなれなかったらしいようです。）

## ウィップラッシュ

## Whiplash [(h)wɪplæʃ]

## ウィップリヤッシュ

名詞で『鞭の紐、鞭打ち』の意味ですが、これはスロー フォックストロットやワルツ（もちろんタンゴやクイックステップ）でも用いられる、一種のピクチャーポーズで、ポピュラー・バリエーションのスロー フォックストロットにも登場します。（ベーシック・ステップではないので、

テクニックブックには載っていません。) どういう足型かを簡単に言えば、ちょうどタンゴのプロムナード・リンクの如く、PPから、扉が閉まる様に女性をクローズドに戻す時に、それを、<sup>あたたか</sup> 恰も鞭をシュンと振る様に、素早くパツとクローズドに戻し、その余韻を楽しむ様に、そのクローズドに戻った形を、スウェイを付けて柔らかく動かし、ゆったり花開く?! 感じます。別の意味の単語である、“ブラッシュ”と混同して、『ウィップ・ブラッシュ』などと書かれている書物を見た事がありますが、ブラッシュは『こする。(服に) ブラシをかける。』という全く別の意味の単語ですから、標題の『ラッシュ』と誤用しない事です。ちなみにラッシュも鞭という意味です。

ヴィニーズ・ウォルツ・ターン (又は、ヴィニーズ・ワルツ・ターン) (英文字省略)

上級ステップの名称ですが、ポピュラー・バリエーションのクイックステップに出て来ます。男性が、左足を右足前に交差して、女性は、内回転で、シャッセの様に足を揃える、要するにウィンナー・ワルツのリバース・ターンの前半の状況になる足型で、この場合はカービング・ロック (曲がって進むロック) の直後に接続されています。

ヴィニーズ・クロス **Viennese Cross** [vi:əniz kros] **ヴィアニーズ クロース**

これはウィンナー・ワルツ (ヴィニーズ・ワルツ) のリバース・ターンの前半の3歩と同様な状況になる足型の名称です。例えばタンゴで、基本フィガーである、ベーシック・リバース・ターン (これ自体、ほとんどウィンナー・ワルツのリバース・ターンにそっくりですが…) の最初の3歩のみを踊り、その後バック・チェックをして、ツイスト・ターンに切り返す様な時には、この3歩を、もちろん“ベーシック・リバース・ターンの3歩”と言えば良いのですが、簡単にヴィニーズ・クロスと書いたりします。クロスとはもちろん『交差』の事を言います。男性は前ロックで女性は通常両靴を揃えます。このヴィニーズ・クロスは、もちろん足型名と思って良いのですが、シャッセとかヒール・ターンという様な、“パターンの名称”と思って良いでしょう。

ヴィニーズ・ロック **Viennese Lock** [vi:əniz lak]

ヴィアニーズ **ラック**

前項の“ヴィニーズ・クロス”と全く同じ事柄です。

ヴィニーズ・ワルツ **Viennese Waltz**

[vi:əniz wɔ:ltz] **ヴィアニーズ ウォールツ**

ヴィニーズとは、“ヴィエナ (Vienna) の”という意味、即ち『ウィーンの』という形容詞なので、ウィーンのワルツという意味です。通常、音楽の世界でワルツと言えば、小犬のワルツとかドナウ川のさざ波という、このウィナ・ワルツの (速度の) ワルツを言うので、むしろ私達ボールルーム・ダンスのワルツの方が、“特殊な”ワルツで、それらは特に、イングリッシュ・ワルツと言って区別します。

ウィング **Wing** [wɪŋ] **ウイング**

名詞で『(鳥の) <sup>つばさ</sup> 翼、(飛行機の) 翼、(風車などの羽根)。』で、日本語にもなっています。ダンスに於いては、ワルツの基本フィガーの名称です。PP からカウント1で、男女とも前進し、その後男性はカウント2、3を一種のヘジテーションで止まり、女性は、2歩カーブして男性の周囲を小さく前進し、男性の左寄りの位置に移動するステップで、最後にウィング・ポジション (=レフトサイド・ポジション) になる事や、そもそも道中男性はステップがなく、止まる事からも、かなり特徴的で変わった足型です。男性が静止して女性はその周囲を回る時に、女性の体が、男性からはえた翼の様な形に見えるから、こう呼ばれると言われています。



ウィング・カラー **Wing Collar** [wɪŋ kalə] **ウイング カラー**



直訳すれば『翼の襟』ですが、これはワイシャツやドレスシャツの襟の形 (種類) を言い、イラストの様に、ピンと尖った襟を指します。ダンス競技会で燕尾服を着られる方は、プラスチックのウイング・カラーをイカ胸シャツに装着しますね。あの、鳥の翼の様にピンと開いている襟の形がウイング・カラーです。カラーはカタカナで書くと、色を表わすカラーと同じですが、英語の綴りは異なり別単語で『襟』という意味です。(色の方は、カラー= color)

**ウイング・フロム・PP** (英文字は省略)

ワルツの基本フィガーの名称で、従来の教本の“ウイング”と全く同じ足型です。従来の教本ですと、クローズド・ポジションから始めるウイングを“クローズド・ウイング”、PPから始めるウイングをただ単に“ウイング”と呼んでいましたが、WDSFの教本では、それぞれ前者を“ウイング”、後者の方を“ウイング・フロム・PP”という名称で区別して掲載しています。

ウィング・ポジション **Wing Position** [wɪŋ pəzɪʃən] **ウイング パズィション**

ワルツの基本フィガーのウイングという足型の時の様に、女性が通常の、男性の右側ではなくて、左側に移った時の組み方=ホールドの状態を、ウイング・ポジションと言います。しかしこういって、ウイング

さん?!にエコ<sup>ひいき</sup>鼻<sup>ひいき</sup>する名称になり、同じポジションになる、ホバー・クロスさんや、レフトサイド・フェザーさんが悲しく思うといけないので、通常は公平な名前の、『レフトサイド・ポジション』とも言います。(ウイングの項のイラスト、又は67ページを参照)

一応標準的な分類では、ポジションは次の5種類になります。即ち、①クローズド・ポジション ②プロムナード・ポジション (PP) ③ウイング・ポジション (=レフトサイド・ポジション) ④セイム フット ランジ・ポジション ⑤カウンター・プロムナード・ポジション (CPP) の5種類です。

### ウィンドミル **Windmill** [wɪn(d)mɪl] **ウ**ィンドウミル

ジャイブの基本フィガーの名称。両手ホールドで、PPになったり (もしくはPPでないとも解釈できますが…)、又は向かい合ったりして、天井から見た時に、両手を広げて、カップルが回転する有様が、大きな風車の様なので、そのイメージからの命名と思われれます。ジャイブの場合は左回転になりますが、ジルバで似た様に踊る時は、右回転になります。ウィンドミルは、名詞で『<sup>ふうしや</sup>風車』<sup>かざぐるま</sup>です。ミルとは“製粉所”、つまり粉ひき小屋の事ですから、風車の力を用いて粉を引いていたという事でしょう。



### ウィンナー・ワルツ (ドイツ語)

ヴィニーズ・ワルツとも言いますが、ウィンナーというのは、ウィーンのことという意味の形容詞がドイツ語で **Wiener** (ヴィーナー) というところから来ています。この単語をローマ字読みすると、ウィンナーとなる訳です。ちなみにドイツ語ではWは濁るので、ヴィーナーになり、その事から英語では、ヴィニーズという風に濁った音になるのです。他には有名な単語で、自動車の会社の“フォルクスワーゲン”がありますが、逆にVの字はドイツ語では濁らない時もあるので、**Volkswagen** が、フォルクスヴァーゲン (wagen は濁ってヴァーゲンになります) になり、この単語を英語で用いる場合は、ヴォルクスワーゲンと発音します。いずれにしろ、ウィンナー・ワルツというのは、ドイツ語を用いているので、一種の和製英語と言えます。ちなみにウィンナー・コーヒーは、ウィーン風のコーヒーという事で、ドイツ語では前述のヴィーナーを用いて、**Wiener Kaffee** と言います。これはコーヒーの上にホイップ (=ダンスで用いるウィップと同一単語ですよ)・クリームが載っている物ですが、本場では生クリームが載っているとの事です。

### ウェイト・チェンジ **Weight Change** [wéit tʃéindʒ] **ウ**ェイトウ **チ**ェインジュ

これは単純に直訳すれば『重量の変化』で、ダイエットに成功して、体重が減ったという嬉しい事かしらんとお考えですが、ダンスの技術的専門用語で、教本 (赤本) の最初の章に解説されている『リード』の4種類の内のひとつで、例えば男性が今、右足に体重を乗せているのを、ステップをして左足に体重を移した時に、女性にもそれを敏感に感じてもらい、対応する右足に同じように体重移動していただく、そういうリードの仕方の事をいいます。ちなみに他のリードの方法は、フィジカル、シェイピング、ビジュアル (視覚的にマネをさせる。) です。

### ウェイト・チェンジ・リード (英文字は省略)

前項に全く同じ。体重移動で相手に動作を伝える、リードの仕方の事です。

### ウェイト・トランスファー・イン・プレイス **Weight Transfer in Place** (発音は省略)

これはもちろん『その場での体重移動。その場での体重の移し替え。』という意味なのですが、WDSFの教本の、ルンバ、及びチャチャチャのチャートに於いて、“一般的な動き”という列 (欄) の中で用いられる、決まった言い回しです。例えば、ルンバのベーシック・ムーブメントの男性の第2歩 (右足) 目は、このイン・プレイスのウェイト・トランスファーという表記になります。正確な定義を引用すると、『足を元の位置から動かさずに、その場で体重を移し替える』事です。ちなみにトランスファーもあまり日本語になっていない単語ですが、重要なので、当該項目をご参照ください。

### ウェイブ (又はウェーブ) **wave** [wéiv] **ウ**ェイヴ

名詞で『(海などの) 波。波動。うねり。(感情などの) 波、起伏。(頭髪などの) ウェーブ、ちぢれ。』、動詞としても同形で使い、意味は『(波の様に) 揺れる、うねる、波動する。(手や旗を) 振る。』などの多くの意味があります。ダンスでは、スロー フォックストロットの標準フィガーとして、リバース・ウェイブがありますが、ウィーブと語感や単語自体が似ているので、ウィーブと混同している生徒さんも多い感じがします。ウィーブは



『織りなす』という意味で、ワルツ等の台形の軌跡のステップです。ウェイブは『波』でスロー フォックストロットで、大体リバース・ターンと同等の3歩を踏んだ後に、男性が珍しく、ズーッと後退するステップです。ウィーブの方が、ナチュラル・ウィーブ、ベーシック・ウィーブ、ウィーブ・フロム PP、ランニング・ウェイブなどと種類が豊富です。

ウエスト **waist** [wéist] **ウエイストウ**

これはもちろん、女性の3サイズのバスト、ウエスト、ヒップとか、又は男性に於いても普通に腰回りの辺りを示す“ウエスト”なのですが、英語の発音は、“ウエイスト”で、西を意味する方向のウエスト (west) とは別の単語です。英語のきちんとした意味は『肋骨とヒップの間の胴体のくびれた部分』という事です。

ウエスト・コースト・スウィング

**West-Coast Swing** [wést koust swíŋ] **ウエストウ コウストウ スウイング**

アメリカのダンスのジャンルである『スウィング』というダンスの1分野です。黒人の激しく、躍動的なリンディホップをルーツにしている踊りですが、東海岸で発展したイースト・コースト・スウィングとは異なり、バウンス（弾み、上下運動）やパルス（拍動、膝などの曲げ伸ばしからくる細かい上下運動、揺すり）などはないスムーズな踊りで、一見ルンバの見える時もあります。紙面の文字では、とてもどんなダンスかを説明するのは難解ですから、ユーチューブなどで検索すれば、いっぱいその踊りを見る事ができます。もちろん西海岸で発展したダンスなので、この名称があります。WCS と略記されます。（イースト・コースト・スウィングの項に更に詳密な解説あり。）

ヴォーカル（又はボーカル） **vocal** [vóuk(ə)l] **ヴォウカル**

形容詞で『声の、音声に関する。声で発する。』、名詞として『(特にジャズやポピュラー音楽で歌われる) ボーカル、声楽曲。』です。これは日本語にもなっていて、グループ・サウンズなどでボーカル（歌を歌う人）は誰々であるとかと使います。ダンスのCDなどでは歌入りをヴォーカルといい、楽器だけで演奏されている曲をインストルメンタルといって区別していますね。要するに、音を出している大元の原因が、人の声であればヴォーカル、楽器であればインストルメンタルと理解すれば良いでしょう。

ウォーク **walk** [wó:k] **ウォーク**

名詞で『歩く事、散歩』動詞で『歩く、(犬などを) 歩かせる』という意味で、もちろん非常によく使われる、日本語化している英単語です。ダンス用語としては、タンゴ・ウォーク、ルンバ・ウォークなどと用いて、その種目の特徴を伴った前進の仕方、ステップの呼称として使われます。例えばルンバ・ウォークなら、ヒップ・アクションを伴って、体重が乗った脚の膝はピンと伸ばしながら歩くという様な前進歩のステップ名です。後退の時には、“バックワード・ウォーク”と呼んだりします。

ウォーク・イン・プレイス **Walk in Place** [wó:k in pléis] **ウォーク イン プレイス**

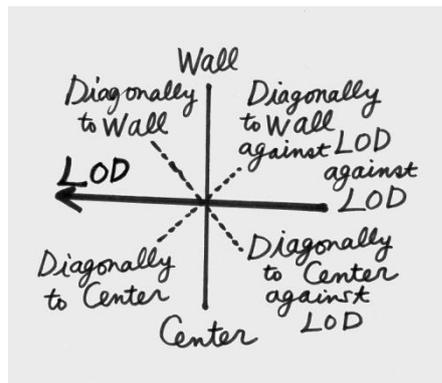
これは『その場でのウォーク。その場での体重の移し替え。』という意味なのですが、WDSFの教本の、ルンバ、及びチャチャのチャート（表）に於いて、“一般的な動き”という列（欄）の中で用いられる、決まった言い回しです。例えば、ルンバの女性で、ファン・ポジションの直後に右足を左足に揃えるというステップをしますが、これがこのイン・プレイスのウォークという表記になります。パッと見（パッと考え？）別項の“ウエイト・トランスファー・イン・プレイス”とどこが異なるか区別しにくいかもしれませんが、(>\_<)……。教本より正確な定義を引用すると、『ボディの下で一方の足を他方の足に閉じる時に、使用される。』となっています。

ウォークス **Walks** [wó:ks] **ウォークス**

ウォークの複数形ですが、ジャイブの基本フィガーにありますので、掲載します。フォーラウェイ・ロック（いつもの後退ロックのQQ）をした後に、PP的に、シャッセを2回してLODに進行するステップ。プロムナード・ウォークスという場合もあります。

ウォークス・アンド・ウィスクス（英文字は省略）

これはチャチャチャの基本フィガー（WDSFの教本）のひとつで、簡単に言うと、男女が無限大の記号(∞)の左右の様に、反対方向に、ちょうど噴水の水の様に別れながら、円形に歩き（ウォーク）、そして向かい合って、ウィスクを2回するというステップです。楽しい足型です。



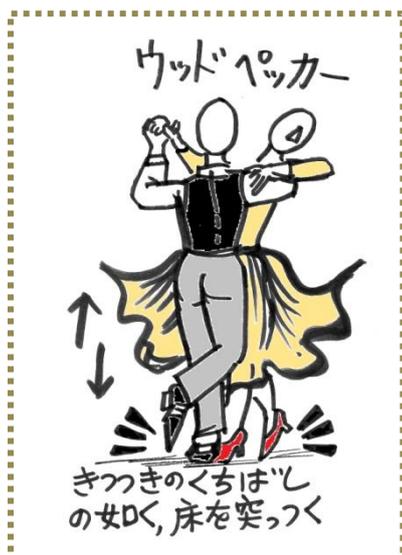
ウォール **wall**

[wó:l] **ウォール**

名詞で『壁』ですが、これはボールルームダンス・テクニクの本で、チャートに於いてアライメントに用いる、方向を示す単語の“壁”に相当する英単語です。ちなみに『壁斜めに面して』は、英語の大元のテクニク・ブックでは“Facing DW”と書かれます。DWとはDiagonally to Wall（ダイアゴナリー・ツー・ウォール）の事で『壁に対して斜めに』という副詞句（単語の一群で、副詞的に用いる物）です。

**ウッドペッカー** **Woodpecker** [wú:dpəkə] **ウッドウペカ**

クイックステップの上級で用いられるステップと言うか、軽く跳ねて、体重を乗せてない方の靴のトウで床を垂直に突つくステップや動作の名称です。ペンデュラム・アクション（両脚を振り子の様に動かすステップ）と共に用いられたりする、クイックステップのバリエーションの定番です。ウッドペッカーとは鳥のキツツキの事で、床をキツツキの様にツンツン突くからです。英語の原義は『木（ウッド）をつつく（ペックする）者（但



しこの場合は鳥)』という意味です。

### エアリアル **Aerial** [é(ə)riəl] **エ**アリアル

これは『空気、空中、空』などでおなじみの、エア (air) の形容詞形です。エアは air、エアリアルになると、aer~になるので、綴りからピンと来ないかもしれません。テレビで『オン・エア』などと言うと『放送される』という意味にもなって、エアは有名な単語です。それゆえ、エアリアルは『空気の、空中でする』という意味の形容詞になるのですが、辞書で検索すると、例えば『スキーのフリースタイルの種目で、ジャンプして回転やひねりなどの演技をする』などという解説が書かれています。ボールルーム・ダンスはマイナー (やる人が少ないという意味) なので、ダンスの場合の専門用語的な使用の意味は、大きい辞書にも書かれていませんが、エアリアルとは、例えば社交ダンスのショーやセグエ、またリンディホップやロックンロールの踊りなどで、パートナーが、男性 (リーダー) の補助の元、くるりと宙返りする様なステップ (フリップと言います。) とか、パートナーを抱えて空中に持ち上げ、後ろに送って、男性の背中側から着地させるとかの、要するに“空中ワザ” 一種のリフトの様な、色々な技の総称として使います。そのひとつにアラウンド・ザ・ワールドがあります。また、次項のエアリアル・ロンデの様に『空中に足を浮かせてするロンデ』という様に、文字通り『空中の』という意味もあります。



### エアリアル・ロンデ **Aerial Ronde**

#### [é(ə)riəl rɔ̃dɛ] **エ**アリアル **ロ**ンデ

『空中で行なうロンデ』という意味で、例えばワルツやタンゴ (又はルンバでも OK) に於いて、主に女性が、片方の脚を、ブーンと円形に (優雅にや瞬発的に) 振り回す動作。右回転連続スピンのなどのエクシット (出口、終わり方) に用いるとハデで華麗です。エアリアルはエアーの形容詞形で『空気の、空中の』という意味で、これは、床に爪先を、ほぼ擦 (す) ったまま、床に円を描くロンデを“スキム・ロンデ” というのに、区別する時に用いる単語です。スキムとは、『上澄み』という意味で、スキム・ミルクなどと使いますが、フローア (床) の上澄み = 表面を掠めるので、スキム・ロンデと言うのです。ちなみにロンデはフランス語で、正確を期するならば、rondeau [rɔ̃dø] (ロンダウ) となるべきですね。



### エイジング **aging** [éidʒɪŋ] **エイ**ジング

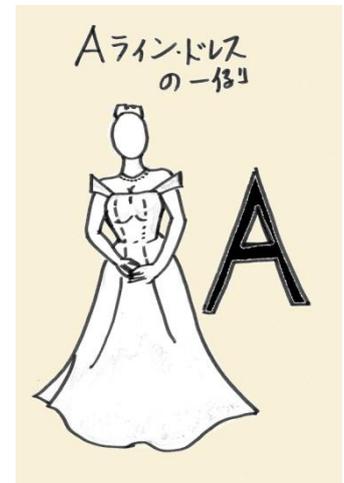
名詞で『老齢化、老化。(ワインやチーズなどの) 熟成。』という意味で、とにかくモノでも人間でも古くなる事をエイジングと言います。もちろん年や年齢、時代を表わすエイジ (age) に ing をつけたものです。ダンスの皆様も高齢化しているので、何とか、ダンスで若返り (エイジング・ケア)、老化に抵抗 (アンチ・エイジング) したいものです。

### エイジング・ケア **aging care** [éidʒɪŋ kéa] **エイ**ジング **ケ**ア

『加齢・老齢化』という意味のエイジングを、予防したり緩和したり (ケア) する事です。似たような言葉に、アンチ・エイジングがあります。

### エー・ライン **A Line** [éi láin] **エイ** **ラ**イン

フランスのクリスチャン・ディオールによる言葉で、ドレスやワンピース、衣服の形のひとつで、他に I (アイ)・ラインと X (エックス) ライン、Y (ワイ)・ラインがあります。なんとなく想像できますでしょう。エー・ラインは、肩の方が小さく (狭く)、スカートの裾の方に (下に) 行くほど、広がる、ちょうどアルファベットの“A”の字の様な形になるので、こう呼ばれます。競技会の衣裳でスタンダードの女性のドレスなどは、特徴的な、エー・ラインが多いでしょう。ちなみに I・ラインは、上も下も細い感じのドレス、又は着た感じを言い、別にイブニング・ドレスなどの正装に用いられるのみではなくて、例えば、細いジーンズと、割りとピチッチとしたポロシャツなどを着た男性の、服の形状にも用います。Y・ラインは上のみ、コートなどでダボツとした感じで、下は細身のジーンズなどにも使いますし、もちろんコートの形などにも言います。X・ラインはウエストのところで、きつく絞った感じで、上下はゆったりしたコートなどの形状を言います。ダンスのドレスや、男性の衣裳のオーダーメイドの時に、こういう言葉を使いこなせるようにすると良いですね。



### エカルト (又はエカール) **Ecart** (フランス語)

パソドブレの基本フィガーの名称で、これはフランス語で『<sup>すきま</sup>隙間、逸脱、(何かをよけるために) 飛びの

く。』等の意味です。多くの場合、足型プリントに、このエカルトの表記の直後に ( ) 付きで、その中に『フォーラウェイ ホイスク』と書いてある事がありますが、その通りで、ホイスクをして、二人がパッと分かれる様に、飛びのく様に見える動作から、こう呼ばれています。

エギザミナー **Examiner** [igzæminə] **イグゼ**ミナー

英国の教師協会が定めている、ダンスの教師資格のひとつの名称で、下から順にアソシエート（準会員）、メンバー（会員）、ライセンスエイト（ライセンス保持者、有資格者）、フェロー（特別会員、又は研究員）、エギザミナー（試験者、又は審査官）があり、下位クラスの試験の際の試験官になったり、競技会の審査ができるできない等の活動範囲の相違があります。公益財団法人 日本ボールルームダンス連盟に於いては、この様な英語表記ではなくて、それぞれ 5~1 級という様に数字を充てています。上述のようにエギザミナーは一最高位の会員階級です。これは語感から判る様に、エグザミン、又はエグザミネーションという単語の同類です。エグザミン（又はイグザミン）(examine) は『試験する。検査する。探查する。調査する。診察する。』という意味の動詞で、エグザミネーション（又はイグザミネーション）(examination) はその名詞形で『試験。調査。診察。』などの意味ですから、エギザミナーは、単純に『試験官。調査官。』という意味です。ダンス教師資格を、文字通り試験できる最高位の資格の名称です。

財団	他の団体など（但し、団体によって、多少異なります。あくまで一つの目安です。）
5	アソシエート
4	メンバー
3	ライセンスエイト
2	フェロー
1	エグザミナー

エキゾチック **exotic** [igzátik] **イグザ**ティック

形容詞で『異国情緒の、異国風の。エキゾチックな。（動植物が）外国産の、外来の、（特に）熱帯産の。』という意味です。例えば女性や、その衣装に対して、エキゾチックな雰囲気などという表現をします。ラテンのドレスなどで、色使いが、何かトロピカルと言うか熱帯風で原色や淡い色など多くの色を同時に取り入れた衣装がこんな感じでしょうか？ちなみに筆者の個人的余談ですが、エロおやじ目線で、キャバレー風に表現をすれば、ポリネシアン・ショーの様な雰囲気かと思えますが、若い人はポリネシアン・ショーって知らないでしょ？

英語的な事を少し書きますが、綴りで、xo は“グゾ”と読む時と“クゾ”と読む両方があります。もつと言え、x を子音的に用いた場合に、グズ行になる？？！（つまり xa,xi,xu,xe,xo が、グズア、グズィ、グズ、グズエ、グズオと読まれる。）場合と、同様にクス行になる（つまり xa,xi,xu,xe,xo が、クスア、クスィ、クス、クスエ、クスオと読まれる。）場合があるという事で、元の exotic は、前者のグズオの場合に該当するのですが、なぜかカタカナ表記になると、クズオ（実際は更に変なカタカナになって、キゾ）になってしまっています。

エクササイズ **exercise** [éksəsaiz] **エク**ササイズ

これはもうバンバンに日本語になっています。名詞で『(体の)運動。練習、稽古、訓練。練習問題。課題。』という意味で、同形で動詞として用いられ、その意味は『(手や足を)動かす。訓練する。運動する。練習する。』などです。もちろんダンスの練習という意味で、広くエクササイズは用いられます。

エグザミナー **Examiner** [igzæminə] **イグゼ**ミナー

エギザミナーと同一単語です。

エクシット **exit** [égzit, éksit] **エク**ズィット 又は **エク**スイット

これは聞き慣れない面もあると思いますが、映画館や、ビルで『EXIT』と書いてあるのを見かけた事も多いと思いますが、名詞で『(公共の建物、高速道路などの)出口、退場口。』との事です。ダンスにどう関わりがあるのかと言いますと、例えば、フォーラウェイ・リバース&スリッパ・ピボットから、テレスピンを踊り、スローアウェイ オーバースウェイのピックアップ・ポーズをして、戻る様に右スピンをして、ルドルフ・フォーラウェイで、女性の右脚を高くロンデさせるというルーテンを今、踊っています。『では、このエクシットは？』という風に用います。例えば回答は『オープン・テレマークに接続して PP で終わります。』でしょう。この様に、何かのまとまりのあるステップをした時に、何で終わるか？(PP になるか、例えばワルツであればナチュラル・ターンに接続するのかなど…) の終わり方をエクシット（出口）と言います。もちろんエンディングとも言います。



エクステンションとは、このイフスの様に、女性が美しいカーブを描いて、後方に反ってシェイプする事です。

エクステンション **Extension** [iksténʃən]

イクス**テ**ンション

技術専門語です。トーション（次項参照）と呼ぶ場合もあり、ほぼ同じ意味です。エクステンションは、動詞エクステンド=extend [iksténd]=イクス**テ**ン

ドの名詞形で、『拡張、伸長、伸展。』という事で、要するに何かを、引き伸ばしたり、延長したりする事で、精密な定義としては、『背中と関連してボディのフロント部分を強くストレッチさせる、女性が頻繁に行なうボディ・アクション』という事で、簡単に言えば、女性が、後方に滑らかに、しなやかに、美しいカーブを描いて、かなり反る事です。これは、WDSFの教本に新たに登場するダンス英単語で、各足型解説のチャート(表)の右側一番最後の列(欄)の見出し語になっています。

ところで、近年ちまたで、“エクステ”という単語を聞きますが、これは女性達に流行っている事で、まつ毛エクステ又はつけ毛エクステがあり、前者は超極細の毛をまつ毛につけて長くして、魅力的な目元を作るもの(要するに、まつ毛を“延長”したという意味から、まつ毛エクステンションという事ですね。)であり、後者は同様に、つけ毛を装着して、髪の毛のボリュームアップを図ったり、髪の毛の形を楽しむもので、両者ともダンスの競技会の装いなどにおいては、かなり昔から知られた事柄です。(ちなみに、シニヨンというのは、つけ毛の事ではなくて、お団子の様に丸めた髪型の事を言うそうです。)

尚、ラテンには、『エクステンディッド・フォワード・ウォーク』という技術があり、これはアレマーナ等の、どちらかというと競技用踊り方で、すぐに体重を乗せずに膝を伸ばしたまま脚を長く保ち、ビートの終わりで、素早く体重をかけて回転をシュパッとスピーディにするというモノです。また、スロー フォックストロットで、“エクステンディッド・ウィーブ”というステップがありますが、これは通常SQQQQQQという風に、Qを6個で踊られるところを、男性が後退(女性は前進)の部分が、2歩増えて、したがって、SQQQQQQQと踊られる、言ってみれば『2歩増えて、拡張された=長くなったウィーブ』という事です。もちろんエクステンディッドは、動詞エクステンドの過去分詞の形容詞で、『延長された、拡張された、長くなった。』という意味です。

ちなみに、ラテンに於いてもスタンダード同様に、このエクステンションは用います。ボディ・マスキュラー・アクション(筋肉による、主に上半身のラテン的な、くねらす様な動き)に起因するアクションのひとつとして定義されており、意味は上記同様で、『伸長』の事です。この時の反対語はフレクション(屈曲)です。

エクステンディッド(又はイクステンディッド)・ウィーブ

**Extended Weave** [iksténdid wí:v]

イクステンディッドウ ウィーブ

エクステンディッドは『延ばした、広げた、延長した、拡張した、派生的な』という様な意味の形容詞で、『延ばす、広げる、拡張する。』という意味のエクステンド(extend)が動詞形です。したがって、表題語は『延ばされたウィーブ』という事で、これは主にスロー フォックストロットに用いる用語で、普通のナチュラル・ウィーブとか、ウィーブ・フロム PP 又は、ベーシック・ウィーブ、更にはウィーブ・エンディングの部分で、男性が後退(女性は前進)するQカウント部分の歩数を偶数歩、つまり2歩とか4歩増やして踊る足型を指します。ワルツは、1小節3ビートで収めないといけませんので、ウィーブもありますが、伸ばし様がないので、普通ワルツに於いては、エクステンディッド・ウィーブというものは存在しません。また思うに、この標題のステップに於いて、何が一番長く“エクステンディッド”になったのか?と問われれば、それはステップではなくて、その名前こそ一番長くなってしまったのではないのでしょうか?



エクステンディッド(又はイクステンディッド)・オープン・ポジション

**Extended Open Position** [iksténdid oupən pəzɪʃən] イクステンディッドウ オウパン パズィーション

これはWDSFのラテン教本に於いて、チャート(表)の“カップル・ポジション”の列(欄)で用いられる、ポジション名のひとつで、今までの教本では使用されなかった言葉です。意味は『引き伸ばされたオープン・ポジション』という事です。腕が普通以上にピョ〜〜と伸びる訳ではないのですが、『より遠く離れたオープン・ポジション』という事です。

略語として、“Ex オープン” “Ex Open”と書かれますので、“エキストラ・オープン”などという風に当てずっぽうに理解しようとしてもうまくいきませんから、注意です。どういう事かと解説すると、例えば、一番判りやすい例としては、**オープン・ヒップ・ツイストの第1歩**に関して、カップル・ポジションが『オープン Opp 次いでEX オープン・Opp』と書かれています。気が狂いそうに新しい感じがします。これは『オープン・オポーキング・ポジション』という意味で、要するに、まず普通の片手ホールドで、男女お互いに相手に面して(これが、オープン・オポーキング・ポジション)立ち、次いで、男性のフォワード・クカラッチャの時に、コネクションを使って、女性をピョ〜〜と、チェックト・バックワード・ウォークにリードしますが、男性は中間バランス、女性は後方の右足に乗るので、男女間の距離は開く事になります。この開いて遠くなった時のホールドが、エクステンディッド・オープン・ポジションなのです。(なので、手を離して立っているとは限りません。この場合はもちろん手をつないでいます。)この様に、新しいチャートでは、色々な言葉がかなり“詳密に”定義(記述)されていますので、最初に取り掛かる時のお膳立て(=色々な言葉の定義の理解)がとても大変なのです。この英単語辞典は、その際に、非常に強力な助っ人になりますので、深くご活用下さいませ!!

エクステンディッド(又はイクステンディッド)・フォワード・ウォーク(英文字省略)

直訳すれば『<sup>ひざ</sup>膝が伸ばされた、前進ウォーク』という事です。これはある一定の事を表現する技術専門用語で、ラテンの教本(赤本)の、ルンバ及びチャチャチャのウォークの項目に登場します。例として女性のアレマーナの第4歩目、つまりファンから歩いて来て、まさにアレマーナの右回転始める、カウント2の左足に関する、技術用語なのです。定義としては『1. トーのアウトサイド・エッジで軽いプレッシャーをし、足を前にポイント。膝を伸ばす。 2. 足に体重を

かけ、音の終わりの 1/2 ビートの間にヒールを下ろす。』となっています。つまり普通のウォークですと、ステップしようとして動かし始める脚の膝は、当然曲がって、その膝がリード（ニー・リード??）するように、まずは膝を前にとがらす様に移動し始めますが、このエクステンディッド・フォワード・ウォークというのは、膝を曲げずに伸ばしたまま、その時間や形を十分長く保って、その後パッと、次の場所に移り移る様にウォークのタイプです。

エクステンド **extend** [iksténd] イクステンドウ



これは、前述のエクステンディッド・～のエクステンディッドの大元の単語です。動詞で『(土地、建物、領土などを) 広げる、拡張する。(期間などを) 延ばす、延長する。(手、足を) 延ばす。』という意味です。エクステンディッドはもちろんこの動詞に ed を付けた、過去分詞的形容詞ですし、エクステンションはこの動詞の名詞形です。とにかくダンスでは、曲げていた<sup>ひざ</sup>膝を真っ直ぐにして、足(脚)を伸ばすという意味に、頻繁に用いられます。

**エクストリーム・トウ** **Extreme Toe** [ikstri:m tóu]

イクストウリーム トウ

エクストリームは聞き慣れない単語ですが、形容詞で『極度の、非常な。(行為、手段などが) 極端な、過激な。一番先端の、末端の。』という意味ですから、これは『過激な爪先?』などと訳せそうですが、そうではなくて、トウの一番先端を床に着けた状態(フット・アクション)という事です。技術的専門用語です。エクストリーム・トウ(つま先の最先端)の定義は『最も高く接地し、トウの最先端にウェイトをかけず主に美しいラインの表現に使用。』という事で、略語で ET と表記します。“最も高く接地し”というのが、判りにくい感じもしますが、まずスタンダードに於いては、これは“フット・アクション”という、チャートの列



(欄) のひとつに書かれるべき単語なのですが、基本フィガーの中では、一つも書

かれてはいませんから、例えばヒールから着地して、足の裏を体重が<sup>じゅんぐ</sup>順繰りに通過して行き、床から離れる最後の瞬間に、この形になったと思っても良いし、又はスローアウェイ オーバースウェイの、男女とも体重を乗せていない足の形が、このエクストリーム・トウであると思っても良いでしょう。(但し、この場合も ET と表記される訳ではありません。) ラテンの場合も同様に、チャートの列(欄)のひとつに載るべき言葉ですが、準備歩のところによく出て来て、例えば、オープニング・アウトの女性の先行(=準備段階)歩のところ、右足リカバー(要するに今現在立っている左足の横に右足を寄せてくる事。)の時に、バック・スウィブルをし、その右足の爪先が、“エクストリーム・トウ”の状態になると書かれています。体重を乗せてない方の足に關してです。早い話が、ルンバ・ウォークをして、体重を乗せてない方の足を、乗せている方の足の真横に寄せた時に、その寄せた方の足の靴が、この状態になる訳で、至極当然の事です。

ちなみにストリーム(stream)という単語がありますが、これは全く別の単語で『(小川などの) 流れ』という意味で、ラジオの長寿深夜番組で“ジェット・ストリーム”というのがあります。

エクспRESSION **expression** [ikspréʃən] イクスプレシヤン

名詞で『表現、表現する事。(顔、目などの) 表情。(気持ち、性格などの) 現れ。表出。』などの意味で、要するにダンスのステップを通じてする“表現”の事です。パソドブレでの闘志、ワルツでのゆったり感、タンゴのシャープで激しい情熱などが、このエクспRESSIONの代表的なものでしょうか? ちなみに動詞形は、エクспRESSで、『表現する。表す。』の意味です。エクспRESS(express)には、同形ですが、一応別の単語としての意味で、『急行、至急配達便の。』などの意味があり、日本で言う“速達郵便”の事をエクспRESS(又はエキспRESS)と言います。

エクSPロージョン **Explosion** [iksplóuzən] イクスプロウザン

サンバなどのラテンで、男女が少し体を寄せ合い、直後にパッと開いて、例えば女性が右横(ライト・サイド・ポジション)で、男性が左膝、女性が右膝を曲げたランジラインを作る様な形をこう呼びます。(但し、イラストは、男性と女性の形は変えてあります。女性はより女性らしいポーズをするので、必ずしも、左右対称になるとは限りません。) エクSPロージョンは名詞で『爆発。爆音。(人口などの) 急激な増加、爆発的な増殖。』という事なので、要するに、シュパッと形をとる事が、何かポンと“爆発”した様に見えるので、こう呼ばれる訳です。この形は“オープン・V・ライン”と言ったりもします。



エスコート **escort** [éskɔ:t] エスコートウ

これは日本語になっている英単語で、“女性をエスコートする”などと、特にダンスの場面では頻繁に使うので、皆様おなじみだと思いま

すが、名詞で『(女性に) 付き添う男性 (と言ってもストーカーじゃないですよ!!)、エスコート役、護衛。護衛艦隊。』、そして同形で、『(軍艦などを) 護衛する。警護する。(女性に) 付き添って案内する。』などの動詞として使います。何だか軍艦と女性と一緒に悦快??な感じですが……。

エスパーニャ・カーニ **Espana Cani** (スペイン語)

言わずと知れた、パソドブレの曲です。競技会やメダルテストで演奏される曲は、全て、このエスパーニャ・カーニと、ハイライトが同じ位置になる曲を用います。

エチケット **etiquette [étikat]** **エ**ティカトゥ

語源はフランス語の『礼』という意味の単語だそうなので、ちょっと英単語とは綴りの雰囲気異なります。英単語と思ってローマ字式に読むと、“エティックエツテ”となり意味不明です。もちろんもう日本語になっている名詞で『礼儀作法、エチケット。』の意味です。ダンス・パーティ・シーンでは、例えば女性を誘う時に、席から踊り始めの位置までエスコートして、曲が終わったら、又元の席まで女性と同行 (エスコート) する等がエチケットです。踊っている途中で他の美人を見つけたからといって、音楽が終わるや否や、現パートナーを放り出してその女性の元へ直線に走って行つては、エチケット違反になります。他に (英語では) マナー (manner) という単語もありますが、ほぼ同様と思って良いでしょう。昔、筆者が教師試験を受けた時に、マナーの問題で、『パーティで同じテーブルに座っている、友人の男性が、たばこを吸おうとした (昔は、今の様に“分煙”が進んでいませんでした…) ので、隣の女性が、ライターを出して火をつけてあげました。これはマナーに合致しているでしょうか?』という問題がありましたが、筆者は『そりゃあ、とても親切で、○でしょ〜!』と回答したのですが、どうもこういう事は、何か水商売のホステスや娼婦がする様な事なので、するべきではないとの事です。マナーやエチケットも難しいですね。



ライターを出して火をつけてあげました。これはマナーに合致しているのでしょうか?』という問題がありましたが、筆者は『そりゃあ、とても親切で、○でしょ〜!』と回答したのですが、どうもこういう事は、何か水商売のホステスや娼婦がする様な事なので、するべきではないとの事です。マナーやエチケットも難しいですね。

エクス・ライン (Xライン) **X-Line [éks láin]**

**エ**クス **ラ**イン

基本フィガーの名称ではありませんが、ワルツ、タンゴ、スロー フォックストロット (もちろんクイックステップでも可能) で踊られる、ピクチャー・ポーズの名称で、名前の通り、ペケ印の形=Xの字型になるので、こう呼ばれます。勿論ラテンでも踊る事は可能です。またワルツのポピュラー・バリエーションのテキストに、動的な?! Xラインが採用されていますが、これはチェックド・リバース (チェックド・ウィーブともいい、要するにウィーブ・フロム PPの第5歩目を静止して強調する様な形の事で、ここでは、リバースターンの第2歩目で止まって同様の形を、ライズで強調した後に、このXラインに入っています。)の直後に、ルドルフ・フォーラウェイと同様なロンデをしますが、このロンデで一番低くなり、そしてロンデした足が真横に来る辺りが、ちょうど Xの字型になるので、こう呼ばれます。ちなみに、スローアウェイ・オーバースウェイも一種のXラインと言えますね。

エッジ **edge [édʒ]** **エ**ツヂュ

名詞で『(刃物の) 刃、(モノの) 縁。(欲望、言葉等の) 激しさ、激烈さ。』などの事で、タンゴのフットワークで、インサイド・エッジ (略号で頭字語で、IEと表記します) などと用います。ダンスシューズの (底面の) 左右の縁の事を意味します。



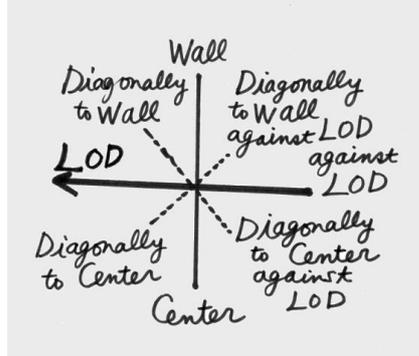
エナメル **enamel [inám(ə)l]** **イ**ニャムル

これこそ実に、日本語的カタカナ表記で、ローマ字式に読み取り“エナメル”と綴りそのままに読みますが、英語ではイニャムルに近く、何か猫がくしゃみをした?! 様な声か、最初の母音の“イ”は軽く発音されるので、キムチのナムルの様に聞こえます。スタンダードの正装に合わせて履く靴は、エナメルと言われているので、それって一体何だろう?と疑問に思っていたら、多岐の人は多いのではないかと思います。調べてみると、エナメル靴、又はエナメル革というのは、靴の皮革の上に、ウレタンの樹脂を吹き付けて、透明な感じを出してあるとの事です。なので、革の上に柔らかいアクリルや薄いプラスチックを貼りつけてある様な感じで、左右の靴がこすれる度に、くっついて引っ掛かり、転倒しそうになった覚えもあるでしょう。英語ではどちらかと言うと、エナメル・レザー (=エナメル革) と呼ぶようです。七宝焼きに似ている面もあり、日本語では瑠璃 (ほうろう) と書きます。

エネルギー **Energie** (ドイツ語)

これはドイツ語で、英語のエナジーと同一です。エネルギーは英単語ではないのです。

エル・オー・ディー (LOD) [él óu dí:] **エル** **オウ** **ディー**



ダンスの(進行)線という意味の英単語“Line Of Dance(ライン・オブ・ダンス)”の頭文字をとったもので、ステップの記述の際の方向を示す言葉として用いられます。

### エレベーション Elevation [elə'veɪʃən] エラヴエイション

名詞で『上昇、高めること、昇進、高さ』などの意味です。どこのダンス・シーンで出て来るかというと、パソドブレの教本(赤本)の例えば、シュール・プラスで、徐々にボディを高くして踊る時にエレベーションという言葉を用います。さて周辺事項の解説ですが、これは動詞形はエレベート(elevate)で、皆様がもっとよく知っているのは、そのer(又はor)形で、エレベーター(elevator)ですね。日本語にするとかえって言い方が難しくなりますが、もちろんビル等にある『昇降機』ですね。今どきエレベーターの事を昇降機という人がいますかね〜? この様にer又はorを付けるとその動詞のあらゆる動作を行なう人や物の事になります。例えばmake(作る)に対してmaker(メーカー=作る人、製造業の会社)とか、direct(ディレクト=指揮、指示する)に対してdirector(ディレクター=指導者、指図をする者)という様にです。また英国ではエレベーターとは言わずにリフト(lift)と言います。

またスタンダードに於いても、ライズという言葉と共に、一般的に『上昇、足で身体を上方向に持ち上げる事。』という意味で、普通名詞(何か特定のステップ名とかを示すために、固有名詞的に使われているのではなくて)として用いられていますが、日本語としては聞き慣れない単語であるために、掲載しました。

### エロス・ライン Eros Line [éras láin] エラス ライン

これはピクチャー・ポーズの名称で、アラベスク・ラインと呼んだりもします。非常によく使われるピクチャー・ポーズです。英国ロンドンのピカデリー・サーカスという有名な交差点があるのですが、ここに、ちょうど東京渋谷の忠犬ハチ公、又は、名古屋市鶴舞公園の噴水塔の様に、このエロス像が立っています。ピカデリー・サーカスと言っても、木下大サーカスの様な、曲芸や空中ブランコをするサーカスではなくて、これは単純に『広場』という意味なのです。

このエロス像が片脚を上げた、写真の様な格好をしているので、こういう風に女性が、主に右脚を、男性

の右側で挙げる、ピクチャー・ポーズの事を“エロス・ライン”と呼びます。男性の諸氏は、エロス・ラインと聞くと、何かHな事をご想像かと思いますが、そうではありません。(しかしこちら辺が筆者も、



深く考え追求する性格なので、大変なのですが、実はエロスはローマではキューピッドと呼ばれている恋愛の神様なのですが、どちらかと言うと性愛の神なので、エロチックという言葉は、このエロスが大元なので、エロス、エロチック、エロい、Hな、という言葉は皆同類なのです。あ、済みません、つい筆に熱が入りまして……)

ちなみにこのエロス・ラインというピクチャー・ポーズはチャートに基本フィガーとしては掲載されておりませんが、ポピュラー・バリエーションのワルツのNo.48に登場して、アウトサイド・スピンから、エロス・ラインをして、トラベリング・コントラ・チェックに抜けていくという踊り方が披露されています。(写真掲載のお礼：下記より引用しました。深謝!!)

<http://bmii.blog10.fc2.com/blog-date-20081019.html>



ロンドンにある、ピカデリー・サーカス(広場)



上の写真の真ん中の拡大→エロスの像

エロンゲイテッド・ボルタ

**elongated Volta** [iló:ŋgeitid vóultə]

イロンゲイティッドウ ヴォウルタ

これは非常に聞き慣れない単語ですが『延ばされたボルタ』という意味です。エロンゲイテッドは『(モノ、時間などが)延長された、引き伸ばされた。』という意味の、(過去分詞的)形容詞です。WDSFのサンパの教本の『サンパの原理』の最後の方(38ページ)に書かれています。『ボタフォゴ・アクションの最初のステップ』という項目で、色々な種類のボタフォゴの最初のステップは、“前進ウオーク”として、チャートの“ジェネラル・アクション”の列(欄)に書かれており、一方、ボルタの第1歩目は“ラテン・クロス”として同じ列に書かれています。しかしこの2歩はヒップや足の形が現実的には非常に似ているので、ボタフォゴの1歩目は、『延ばされたボルタ(=距離が大きくなった)』と言えるので、この様に呼びます。つまりエロンゲイテッド・ボルタとは、ボタ・フォゴの第1歩目の事です。

エンディング **ending** [éndɪŋ]

エンディング

名詞で『終了、終わりの部分、終局、大詰め、語尾』などの意味です。ダンスでは、例えば1曲を振りつけてデモンストレーションを踊った場合の、終了の仕方(例えば、女性がクルクル回転して、何かポーズを付けて静止して終了とか……)を意味したり、またその終わりの部分を指している言葉として用いられます。もちろんエンド(end)のing形で、この場合は動詞の進行形ではなくて、“動名詞”の形です。フィニッシュ(終わり)も同義語です。

エンディング・トゥ・ストップ・アンド・ゴー (英文字は省略)

直訳すれば『“ストップ・アンド・ゴー”に対する終わりの部分』、つまりジャイブの“ストップ・アンド・ゴー”という足型に対する、ひとつの終わり方のステップで、ポピュラー・バリエーションのジャイブに掲載されている、応用足型です。実は、昔筆者の所属する愛知県のテスト・ルーテンにバッチリ採用されていたステップなので、愛知県のオールドな先生?!にとっては懐かしい、青春の?!ステップです。(筆者は、まだ鋭く若いけど……)通常のストップ・アンド・ゴーの直後に、更に女性をクルクル右回転させる足型です。

エントリー **entry** [éntri] エントウリ

名詞で『入る事。入場、入り口、登録、参加者』の意味で、エントランス(entrance)と同じお仲間の単語です。例えば、競技会の出場申込者が100組になった時、『今回のコンペはエントリーが100組あります。』等と言います。出場申込(参加者)数の事です。

又、上記の『入り口』という意味から、ちょうど前々項の“エンディング”の反対語になり、デモンストレーションの踊り始めの部分指します。例えば板付き(=これも日本語のダンス専門用語で、音楽が鳴り始める前から、フロアで、何らかのポーズなどをとって静止して待つ事をいいます。)で始め、音楽の4小節を聞いたら、女性がクルクル回転して、スローアウェイ オーバースウェイをして、ホバーしてPPになり、そこからシャッセフロムPP、そしてナチュラルターンで普通のホールドになって……という様な初めの部分をエントリーと呼んだりします。

オーストリッチ **Ostrich** [ó:stɪtʃ] オーストウリッチュ

名詞で『ダチョウ(鳥の種類の名称)』です。日本語はどうしても平坦か、もしくは後ろの部分にアクセント(強勢)がある単語や発音が多いので、オーストリッチと読んでもしまいますが、英語では一番最初の『オ』にアクセントがあるので注意です。次項の様にダンスドレスの素材として使われる、羽根を意味しますが、オーストリッチは高級バッグの素材としての、ダチョウ(駝鳥)の革(かわ)も示します。右の画像の様に、特徴的なイボイボの財布などは、見た事があります。筆者は貧乏人なので、そういうバッグを持った女性とは交際した事すらありませんが、何でもエルメスのケリーやパーキンにもオーストリッチ素材があり、通常の牛革のカーフ製よりかなり高価という事です。エルメス?ケリー?パーキン?ダンスの勉強一筋で歩んできた筆者にとっては、全く何の事か、全くわかりません。(イラストは [http://shaddy.jp/gs\\_front/shouhin/148377220/](http://shaddy.jp/gs_front/shouhin/148377220/) から引用。深謝!!)



オーストリッチ・フェザー **Ostrich Feather** [ó:stɪtʃ féðə] オーストウリッチュ フェザ

『ダチョウの羽根』という事で、これはボールルーム・ダンスのデモや競技に使う、正装(ドレス)を作る際の素材です。特に女性のスタンダードのイブニングドレス調の長いスカート部分につけると、とてもゴージャスな感じの衣裳になります。

オートクチュール

**Haute Couture** [óto kútju:] オト クチュー

これはフランス語で、オートは『高い』、クチュールは『縫製、仕立て服』という意味で、『高級な仕立て服』の事をオートクチュールという訳です。より正確に言うと、“パリ・クチュール組合”加盟店で、注文により作られる一点モノの服を言うそうです。外来語は切り方?!が難しく、貧乏な筆者は、こういうセレブが使うような言葉はあまり聞いた事がなく、オートク・チュールで、何かチュールというものの一種類だと、長年思っていました。反対語と言いますか、このオートクチュールに対して、既製品の事を『プレタポルテ』と言いますが、皆様も数度こういう言葉を聞いた事があるでしょう。プレタポルテは、オートクチュールの元々のデザインの権利を買い取って、大量生産向けに



して販売した服との事で、既製品と言っても、吊るしの安物ではないので、『高級既製品』と訳すそうです。

私達のダンス業界でも、ダンスドレス・メーカーのタカ・ダンス・ファッションさんのカタログに、オートクチュール、及びプレタポルテとレンタル・ドレスのコーナーがあります。

### オーナー・ダンス (又はオナー・ダンス)

#### Honor Dance [ónə dæns] アナ デヤンス

筆者は打ち明けるのも恥ずかしいのですが、長い間これを『教室の経営者 (オーナー) が、(パーティ等の終わり際にソロで踊るデモンストレーションとかの) ダンス』の事だと思っておりました。それに、ABDK (愛知ボールルームダンス協会) 主催で、名古屋観光ホテルで開催される恒例の“サマーボールルームダンスフェスティバル”などでは、『教室オーナー対抗ドリウムマッチ』というのがあります (ローカルな話で恐縮です。) が、そういう時の、経営者カップルのダンスの事かと思っておりましたが、実はそうではなくて、オーナーとは、名詞で『名誉、光栄、尊敬。』などの意味で、オーナー・ダンスとは、例えばある競技会で優勝したカップルが、その栄誉を称えられて、表彰時などにひと組で踊るダンスの事です。英語の発音は“オーナー”と言うよりは、“アナー”と聞こえ、更に h は黙字 (=発音しない字) なので、間違ってもオーナー・ダンスと読んではいけません。



#### オーバースウェイ Over-sway [óuvə swei]

**オ**ウヴァスウェイ又はオウヴァス**ウ**エイも可  
オーバーなスウェイ、つまり中国語風書けば『過剰傾斜』ですが、これはピクチャー・ポーズの名称です。ワルツ、タンゴ、スロー フォックストロット、クイックステップなどの種目にも用いられる、頻度の高いピクチャー・ポーズの名称です。

スウェイは『傾き』の事です、スウェイの項を参照願います。

#### オーバースウェイ・ウィズ・ナチュラル・スピン・エンディング (英文字は省略)

これはポピュラー・バリエーションのタンゴに掲載されている応用ステップの名称です。標題の通り、オーバースウェイを右回転をして終わるというモノです。正確に言えば、オーバースウェイ後に、QQで右回転し、男性は次の右足を横 (女性は左足を横) にステップして、そのまま反対足をタップして (カウント S&) PPになる足型です。

#### オーバースウェイ・オールターナティブ・エンディングズ (英文字は省略)

オールターナティブは、該当項を参照してほしいのですが、簡単に言えば『二者択一の。代わりになる。』という意味の形容詞なので、要するに、『オーバースウェイの他の終わり方』 (=チャート以外の終わり方) という事で、シャッセをしてウィスクからタップとか、そのまま足を閉じて PP (一種のドラッグ・ツーPP) などの終わり方が (WDSFの教本には) 6個記載されています。一応それらを書き出すと。方法 1. ⇒体重を移し換えて PP、方法 2. ⇒足を閉じて PP、方法 3. ⇒シャッセ、ウィスク、前進して PP、方法 4. ⇒シャッセ、ウィスク、プロムナード・リンク、方法 5. ⇒シャッセ、ウィスク、足を閉じて PP、方法 6. ナチュラル・スピンで PP の 6個の踊り方です。

#### オーバースカート overskirt [óuvəskə:t] **オ**ウヴァスカートウ

特に社交ダンスの衣裳に於いては、女性がパンツ (ズボン) の上に重ねて穿く、やや短めのスカートの事です。一般的には、スカートやドレスの上に重ねて穿くスカートの事です。(別に下が、またスカートであっても良いようです。) 色や素材の組み合わせで、色々楽しめます。また、ヒップラインをあまり見せたくない様な場合にも穿くと便利なので、そういう意味の時は、特に“ヒップ・カバー・スカート”と呼んだりもします。又“上スカート”とも言い、別にダンス衣装界の造語という訳ではなくて、広く一般的にも使います。イラストは、スカート・オン・パンツの時の転用しましたが、こんな感じでしょうか？



#### オーバーターン (又はオーバー・ターン) overturn

#### [óuvətá:n] オウヴァターン (動詞として)

#### 又は over turn [óuvə tá:n] **オ**ウヴァ **タ**ーン

これは文字通りオーバーなターン=定量を越えた回転、つまり『テクニクブックなどに規定されている標準の回転量を越えた回転 (量)』という意味です。たとえば、女性の足型の例で、女性がルンバで、ホッケー・スティックの次にニューヨークを踊ろうとするような場合、通常ホッケー・スティックで、男性と向かい合って終わる (オープン・フェイシング・ポジションで終わる) ところを、更に回転延長して、CPP になるところまで回転しますが、こういう回転をオーバー・ターンと言い、このホッケースティックを、オーバーターンド・ホッケー・スティックと呼びます。(但し、現在の赤本の教本では、こう呼ばずに、“オープン・CPPに終わるホッケー・スティック”と言います。) この場合の、オーバーターンドは、オーバーターン

を“動詞”として用いた際の過去分詞形で、過去分詞形は形容詞として使用されるので、『オーバーターンした(された)』という意味になります。ただし留意点として、まじめな人程、普通の辞書でこの英単語を調べると、意味として、上記の様な事はひとつも書かれていなくて、オーバーターンは、動詞として『(船などを) 転覆させる、ひっくり返す。(政権などを) 打倒する。(決定等を) 否決する。くつがえす。』名詞として『転覆、打倒、崩壊』等という様に、物騒な内容ばかり書かれているので、オーバーターン・ナチュラル・スピン・ターンなどは、ナチュラル・スピン・ターンをしようとして、足がもつれて、転倒した事をいうのかとか思って悩んでしまいます。なので正確に言えば、このオーバーターンは、ダンスの専門用語として使われている訳で、一般の人が、『余分に回転する』という意味では、ほとんど使わないという事です。大体日常生活で、『余分に回転したり、させたりするような物体』ってあまりないでしょう？ ちなみに、スウェイも、どちらかと言えば、『揺れる』という意味が強く、『傾く』という意味は、普通の辞書には掲載されていませんので、多くのダンス英単語は、ダンスの専門技術用語としてのみ用いられている場合が多い という認識の方が良い位です。また、オーバー・ターンという風に 2 語にして、『オーバーなターン』=『多くした回転、過剰な回転。』と理解しても、明快で良いでしょう。さて、途中で出てきたオーバーターン・ナチュラル・スピン・ターンとは、通常のスピンターンが例えば、男性最後は中央斜めに背面して終るのに対して、次にターニング・ロック・ツー・ライトを後続として続けようとする場合、回転を多くして、LODに背面して終ります。つまりいつもより 45° 多く右回転して終るので、オーバーターン・ナチュラル・スピン・

ターンという訳です。ちなみに今の教本に掲載されているターニング・ロック・ツー・ライトも旧名称はオーバーターン・ターニング・ロックでした。

オーバーターン **overturned** [ouvətə:nd] オウヴァターンドウ

形容詞(精密には、動詞の過去分詞形ですが、それを形容詞として用いたという事です。)で、意味は『余分に回転した、規程の回転量より多い回転の。』という事で、例えばルンバのホッケー・スティックの女性は、チャート通りだと、男性と向かい合って終わりますが、それを 90° 左へ余分に回転して、ニュー・ヨークなどに接続する時には、オーバーターン・ホッケー・スティックと言ったりします。

オーバーターン・シェイピング

**Overturned Shaping** [ouvətə:nd ʃeipɪŋ] オウヴァターンドウ シェイピング



この様に、男性が左手で、女性の右手を、上から押さえつける様なシェイピングの事です。今、これは、ジャイブの“オーバーターン・フォーラウェイ・スローアウェイ”の第5歩目(最初のシャッセの直後)の瞬間です。

ラテン種目に於いて、女性が男性の前において、フェーシング(オポーシングとも同一で、男性と向かい合っている状態)ポジションから、タンデム・ポジション(又はセიმ・ポジションとも同一で、要するに男女が縦に並んで、同方向を向いている組み方)になる時の、主にホールド(それも腕の形、手の持ち方)の“形=シェイピング”の事を言います。シェイピングは、シェイプという動詞(～の形を作る、の姿勢とすると意味)のing形で、名詞になり、『～という形を作る、～という姿勢をする。』という意味です。標題の単語の意味は、『(反対向きに、ひっくり返って)余分な回転をした時の、姿勢』という意味で、具体的には、手は、男女の肘が伸びるまで低くして、男性の親指が最も低く、他の指が最も高い位置となる様に回転するという事です。要するに簡単に言えば、タンデム・ポジションになる時の、腕の形を言います。

**オーバーターン・ターニング・ロック**

**Overturned Turning Lock** (発音は省略)

『余分に多く回転して踊る、ターニング・ロック』という事で、これはワルツの基本フィガー名で、現在の“ターニング・ロック・ツー・ライト”と同一で、男性が後退ロックをしながら、右回転をして、PPで終わるフィガーです。左回転の普通の“ターニング・ロック”と異なり、右回転が余分に多くなるので、この様な名称になっています。(要するに、古い教本で使われていました。)

**オーバーターン・チェンジ・オブ・プレイス・レフト・ツー・ライト** (英文字は省略)

これは、ジャイブの基本フィガーの“チェンジ・オブ・プレイス・レフト・ツー・ライト”の発展型(ディベロップメント)で、名前の通り『たくさん回転した、チェンジ・オブ・プレイス・レフト・ツー・ライト』という事で、元のチェンジ・オブ・プレイス・レフト・ツー・ライト(これは、チェンジ・オブ・プレイスの後半になる訳です。)は、女性が左回転して、男性と向かい合って終わるのですが、一旦、女性をタンデム・ポジション(女性が前で、男女が同方向に、前後に並んで立つ位置)になるまで、左回転を増やし、その後女性が男性の方に振り向いて、向かい合うという足型です。WDSFの教本で言えば、ちょうど、前々項の“オーバーターン・シェイピング”の状況になる訳です。

オーバーターン・チェンジ・オブ・プレイス・フロム・レフト・ツー・ライト (英文字は省略)

前項と全く同じ足型です。多少教本によって、ネーミングが異なります。

#### オーバーターン・ナチュラル・スピン・ターン (英文字は省略)

ヴィニーズ・ワルツの基本フィガーのひとつで、WDSFの教本に掲載されています。この教本では、ヴィニーズ・ワルツに於いては、従来は考えられなかった、ナチュラル・スピン・ターン、ランニング・ウィーブ、レフト・ウィスクなど、通常のひっくり返りのワルツの足型が、かなり採用されて、従来のヴィニーズ・ワルツらしくなくなっています。この名称は、『たくさん回転したナチュラル・スピン・ターン』ですが、ワルツの通常のナチュラル・スピン・ターンの第4~6歩を、男性ならば、LODに左足後退してほぼ1/2ピボット、次いで、右足前進して、ほぼ1/2、ピボッティング・アクション、更に左足後退して、第4歩目同様、3/8ピボットして中央斜めに終わるというステップです。この第6歩目もピボットにして、次の足を、再度ナチュラル・ターンなどに接続できる様に前進歩にしている点が、従来の普通のワルツのナチュラル・スピン・ターンと異なりますし、更に書くと、この大元のナチュラル・スピン・ターンも、今回ヴィニーズ・ワルツの基本フィガーとして掲載されています。

#### オーバーターン・フォーラウェイ・スローアウェイ

##### Overtured Fall-Away Throw-Away (発音は省略)

『回転を多くした、フォーラウェイ・スローアウェイ』という意味で、ジャイブの基本フィガーのひとつで、結局フォーラウェイ・スローアウェイという大元の基本フィガーを、左へ1/8ほど回転を多くしたり、また女性をランニング・アクションにしたりと、少し変えたステップです。ちなみに、更にこれを、一旦女性がスパイラル・アクションで、タンデム・ポジションになる(ちょうど、オーバーターン・チェンジ・オブ・プレイス・レフト・ツー・ライトの様に)様に更に応用変形すれば、それは『オーバーターン・フォーラウェイ・スローアウェイのディベロップメント(発展型)』という、めちゃくちゃ長い名称になり、これも基本フィガーとして掲載されています。フォーラウェイ・スローアウェイは、当該項を参照してほしいのですが、なぜそういう名称になるかという点、最初の部分で、いつもの様に、男女はPPで後退して、ジャイブの足踏みをするので、フォーラウェイという名前がつき、その後女性が、<sup>あたか</sup>恰も向こうに放り投げられるかのように、離されるので、スローアウェイ(=向こうに投げる)という名称がつくのです。

#### オーバーターン・ベイシック

##### Overtured Basic [ouvətə:nd béisik] オウヴァ<sup>ター</sup>ードウ <sup>ベ</sup>イシック

従来のオーバーターン・~から言うと、『はは~ん、元のステップの回転量をチョイ多くしただけで、元のステップとほとんどおんなじだわな…。』と早合点しそうですけれども、これは、ルンバのベーシック・ムーブメントの回転量を、少し多くしたものだと思うと大間違いです。ルンバの基本フィガーのひとつ(WDSF)で、近年、競技会やデモでも頻用される、女性がいきなり、タンデム・ポジションにひっくり返り、その後また男性に向かい合うという、一種のオープン・ベーシックの応用形なので、この様に、『回転が多くなった、ベーシック、ひっくり返るベーシック。』という名称になります。

#### オーバーターン・ランニング・スピン・ターン (英文字は省略)

ワルツの基本フィガーのひとつ(WDSF)です。ランニング・スピン・ターンというのは、基本フィガーではありませんが、従来からある、大変にポピュラーなステップで、それを回転を増やした足型かと思いきや、すつとこどっこい、『どうしてこの名前で、こんなフィガーになるの?』という様な感じで、ここだけ編著者の趣味なのかと思う様な足型です。ナチュラル・ターンの3歩をして、その後右回転をグルグルして、その後ふたりで、いわゆるフォーラウェイ・ウィスクの状態になります。(カウント1&231)そして、クイック・ウィングを2&3で踊って、中央斜めに面して終わる(男性)という複合ステップの事を、オーバーターン・ランニング・スピン・ターンと言います。

#### オーバーターン・ロック・エンディング Overtured Lock Ending (発音は省略)

これはチャチャチャの、カウント4&1のロックやシャッセの代わりに置き換えて踊れるという、ロックの変形で、基本フィガーのひとつとして掲載されていますが、多くのフィガーを、こういう終わり方に変更できるという、名前の通り“エンディング”の一種です。例えばファン・ポジションに終わるクロウズ・ヒップ・ツイストなどで、ファンに開くところを、ファンの直前のカウント3で、ほぼ“オープン・セイム・ポジション(=従来のタンデム・ポジション)”で、女性が前になり、男女ともロックをして同方向を向いて終わるといふ様な、4&1の部分が“オープン・ロック・エンディング”です。

#### オープニング・アウト Opening-Out [óup(ə)ning áut] オウパニング アウトウ

これはオープン・アウトという動詞の動名詞と思えば良いので、アウトにオープンする、つまり外に向いて開くという意味です。ルンバで、ナチュラル・トップを踊った後に、クローズド・ヒップ・ツイストに入る時、その最初で、恰もドアが開くごとくに、女性を右横方向に、右側回転させる時に、その形やステップ名として使います。

#### オープニング・アウト・ツー・ライト・アンド・レフト

(英文字は省略)

もちろん『右と左へのオープニング・アウト』という意味で、この“ツー”は、ふたつの意味ではなくて、toで、『~への』という前置詞です。ルンバの基本フィガーのひとつで、即ち、女性が男性の右と左に、前項の“オープニング・アウト”の状況を作る、2小節からなるステップです。ところでいつも思うのですが、チャチャチャに於いても、このステップは当然考えられる(し、無



理なく自然に踊れる) のですが、チャチャチャでは採用されていないし、通常踊りませんね。何故なんでしょうかね??

オープニング・アウト・フロム・リバース・トップ (英文字は省略)

ルンバの基本フィガーのひとつで、リバース・トップ (ほぼナチュラル・トップの反対バージョン) を踊って、そのままの渦巻きを保ちながら、男性が少し離れて、ファンになるという、大変地味なステップですが、すごく長くて大仰な名前がついています。どちらかと言うと『ファン・フロム・リバース・トップ』という名称にした方が判りやすいのに……。

オープン                      **open** [óup(ə)n]      **オ**ウブン (オープンではありません。)

もちろん『開く』という動詞、また『開いている』という状態を表わす形容詞として用います。片手だけをつないで、クローズド・ホールドよりはふたりの身体が距離的に遠いホールドを、オープン・ホールドと言ったり、オープン・ポジションという様にポジション名としてなど、更にはオープン・ターンとか、オープン・テレマークという様に、回転方式の名称や、ステップの名前の中でふんだんに使用されます。多少細かく、用いられ方を解説しますと、タンゴのベーシック・フィガーのクローズド・プロムナードとオープン・プロムナードの違いは、第4歩の最終歩を閉じるか開く